

ハリー・ポッターと賢者の石

小宮 一仁*

数年前ケンブリッジ大学工学部に勤めていたことがある。その年は隣国フランスでサッカーワールドカップが開催され、また英本国ではハリー・ポッターと賢者の石の童話が大打撃していた。ワールドカップとハリー・ポッターという取り合わせは、昨今の日本のブームと共通しており、今日本でこれらの話題を耳にすると、数年前の英国での生活が思い出されてくるのである。

ハリー・ポッターの本は、当時BBCをはじめとする各メディアが大々的に取り上げていてまさに社会現象になっていた。この物語の主人公であるハリー・ポッターなる魔法界の血を受けた少年は、賢者の石を守るためロンドンにキングスクロス駅の9番線から魔法を使う人が住む町(スコットランドにあるらしい)の魔法学校に旅立つ。キングスクロス駅は、ロンドン市内で最も乗降客の多いターミナルである。吾が国でいえば東京の新宿駅にあたる駅で、駅の雰囲気も新宿駅に似てどことなく雑でごみごみしている。ただ物語とちょっと違っているのは、主人公の少年が旅立った9番線あたりからは決してスコットランド行きの列車が出ないという点である。実際のキングスクロス駅は1～8番線がスコットランド方面へ向かう長距離高速列車のターミナルになっていて、9番線から12番線はこのターミナルからちょっと離れた別の場所にひっそりとあり、ここからはケンブリッジやピーターバラやキングスリン行きの近郊電車が発車するのである。私がケンブリッジ大学に赴任する時も、キングスクロス駅9番線の近郊快速電車に乗り込んだ。閑話休題、ここからハリー・ポッターの魔法学校ならぬ私が勤務した英国ケンブリッジ大学の生活について紹介しようと思う。

ケンブリッジ大学工学部の一日は、だいたい午前9時から始まる。1時間目の講義が9時から始まるので、この時間にはほとんどのスタッフは出勤している。講義時間は午前9時から1時間ずつ4コマあり4時間目終了の午後1時に終わる。講義と講義の間には特に休み時間がないので、学生の教室移動等のため実際の講義時間は50分程度になる。講師以上のスタッフは、1つの学期(term)にだいたい1コマないし2コマの講義を受け持つので、教員にとってははずいぶんと空いている時間が多い。空いている時間は研究やドクターコースの学生の指導や雑用に使うが、この空いている時間がなんとも優雅に流れて行く。というのも、毎日

原稿受付 2001年12月4日

*正会員 千葉工業大学工学部

(〒275-8588 千葉県習志野市津田沼 2-17-1)

午前11時になると、教員はスタッフルーム、授業のない学生は学生食堂に集まり、紅茶を飲みながら40分程会話をはずませる。その後すぐ午後12時半から1時間程昼休みをとり、午後3時になると今度はアフタヌーンティータイムの会話の花が咲く。そして午後5時にはスタッフは家路につくのである。学生は午後1時以降は講義がないので、午後はカレッジに帰り思い思いの時を過ごす。このカレッジがまさにケンブリッジ大学の母体といえるのである。

ケンブリッジ大学(University)は多くの日本人の予想に反して国立大学である(オックスフォード大学も同じ)。しかしケンブリッジ大学が私立大学とされているのは、ケンブリッジにある32のカレッジ(College)が私立だからである。学生はケンブリッジ大学に入学するのではなくカレッジを受験しカレッジに入学する。そして学期中はカレッジに住んでそこから大学の各学部に通学するのである。教員の場合も、多くは大学の教員であるとともにフェローとしてカレッジに所属している。私も工学部とともにダーウィンカレッジという大学院カレッジに籍をおいていた。実は、大学に午後の講義がないのは、午後はカレッジにおいて教員が少人数の学生を相手にスーパーヴィジョンという指導を行うためである。このスーパーヴィジョンはまさに独特な個人指導である。カレッジに所属する教員は、このスーパーヴィジョンや毎晩のディナーを通じて優雅なカレッジライフを学生と共有するのである。

ケンブリッジ大学は大学・カレッジ共に3学期制である。新年度の10月初から12月中旬までのMichaelmas(ミケラマス)term, 1月初から3月末までのLent term, 4月中旬から6月末までのEaster termである。Easter termにはTripos(トライポス)と呼ばれる学年末試験期間も含まれるので、実際に講義が行われるのは半年弱である。ケンブリッジ大学には留年制度はなく、Triposの成績が悪く進級を逃した学生は放校処分となる。このため、学年末試験期間中はピリピリとした雰囲気が学内を取りまくが、無事進級した学生達には、ボールと呼ばれるカレッジ祭と長いサマーバケーションが待っているのである。教員は、3タームの勤務で4タームのサヴァティカルの権利を得ることができる。つまり4年間(12ターム)働けば1年間(3ターム)のサヴァティカルが得られることになる。優雅にゆったりと流れる日常とともに、このサヴァティカル制度は非常に羨ましく思えた。講義・ゼミ・会議・委員会等々に追いつまられる今の私の生活と比較し、彼らは賢者の石を手に入れているに違いないと思う今日この頃である。